

完全に成立した 出炭一割制限

四月一日より六ヶ月間
常磐炭産出制限

常磐炭産出制限

常磐の各炭礦が刻下、苦境常磐炭礦の現在貯炭約六
を切り捨てる最善の方法として十割出炭制限を
として炭價維持貯炭整理を算定で長らく苦境に立つた
目的とする出炭制限問題は各炭礦とも今年より自主
各炭礦本社が東京丸の内一筋轉すもこの様に観測さ
業倶楽部、合合し態度を強めてゐる
の結果今四月一日より向
よ六ヶ月間一割出炭制限を
も左記の如く出炭制限を算
定する事となつたその協定
制限は

本郡地方の 麥作良好

神尾技師調査

磐城六、〇〇〇噸、入
山三五、〇〇〇噸、古川
一五、〇〇〇噸、三井一
二、〇〇〇噸、福島八、
〇〇〇噸
等にして之は自家用炭を
除去商品炭の出炭を斯く
制られたるもので従來の
出炭に比し約二割を制限し
た事となる此の率は全
炭礦の申告した五分制限
以外にして向六ヶ月間に
は磐城炭礦の十萬噸を初

櫻惜しくも逝く 待たれたる公園の躑躅

萬山漫遊の幕落り

平町の櫻は何事にも不景
氣の餘波を被らぬものと
ない昨今の時節柄なると
拘らず先日來却てその反
動も見れば、賑ひを以て
見せれば、一雨は春漸く
凋落の域に入り新川句に
相聞し、殊に本社が實

木田藤次郎君に教ゆ

坂本 茂雄

木田君、僕が君を相手
に貴重な紙面を潰すこと
第一讀者に済まない、殊
新聞材料の除らば、さ
君の名前の藤次郎君と
書いてゐる暇も無い、迷
が、けふは恰度幸ひ所謂
「新聞のタネ」が沸底で
紙を出さねばならぬ、何
まで苦心してゐる、餘白
字代りに少し書いて上げ
拂つても好いじやないか

通俗統計講演

あす第二夜

山崎純一郎君講演に
の盛況を呈するものと
想されて、都合、朝奉
の櫻は大体切上げの形
となり、落花、舞臺の花
晩鐘を木の頭、流石の
代つて目のまる様な新
通俗統計講演會を開
主催の通俗統計講演會
△商工省統計官藤井桃
氏、一合理化運動の意
△早稻田大學教授小林
氏、一合理化運動の意
△三國産業と合理運
△早稲田大學教授小林
氏、一合理化運動の意
△三國産業と合理運

△早稲田大學教授小林
氏、一合理化運動の意
△三國産業と合理運

腸チブスの蔓延は 隔離舎の不備

病舎新築を急ぐ

平町の腸チブス患者は現在
三十四名を收容し、發生以來
四十日を経過せる今、未だ
一名の退院者も出さず、
みか二十四日、加藤新が死
たか町當局では、隔離舎
の消毒設備の不備に、
全なる為め、昨午、
二十二日、大森、清水、
師及び防疫員荒川次郎氏
外二名が郡山市の隔離舎
を視察し、速日、消毒の
病舎の内容改善を計る事
となつたが、本年度中に
山山市の隔離舎に、
至るのを待つて、
相じやないか、
△本田君、今度、君の所
記、だか、事實無根の捏造
事であるか、立派に事實を
記す、あつたらば、本田君
「静岡縣農業技術」を奉職
した事があるのか、此の際
は、本田君、君の書いた、
治、大正、昭和の前後六十
餘年中には、そんな手は、
か本當に、僕と相手に喧嘩
を、全、全、全、全、
上、上、上、上、
の、の、の、の、

植田に變更 平の旅館困る

徴兵検査も

別項、如く、平町の腸チブス
患者は、毎日、
十四日、
二十四日、
三村十八ヶ村の徴兵検査は
一般、
執行、
之、
之、

飲食品店の取締 平署に注文の聲

傳染病の流行期を控へ

平町は腸チブスの蔓延と共に
町民健康の不安に當局
では、
益々、
料理屋、
飲料、

高橋貞松氏の 懇親觀櫻

町内有志招待

高橋貞松氏は、
平町、
上、
上、

田中博士講演 第三回大會

石城青年同盟

石城青年同盟第三回大會は、
二十三日、
石城、
二十三日、
二十三日、

「寶探し」に代る別の懸賞 新新奇拔な方法を發表

磐城新聞社

本社七週年記念事業の一として、計画した「寶探し」の快
は、
白熱的歓迎を受け、
あり、
變つた、
に、
法、
し、
詳細は、

好問の放火

石城郡好問村

好問の放火、
石城、
二十三日、
二十三日、
二十三日、

乳母募集

姓名 在社

乳母募集、
二十才以上三十五才迄の、
堅、
後、
本、

入山採炭株式会社 好問礦業所

所長 下野 十朗

入山採炭株式會社、
好問礦業所、
所長、
部長、

小田吉治

川瀬 炭礦

小田吉治、
川瀬炭礦、
石城郡、
電話、

石城郡銀行組合

電話 五六四

石城郡銀行組合、
電話、
電話、

祝創刊七週年

小田炭礦株式會社

祝創刊七週年、
小田炭礦株式會社、
社長、